

## 06年から07年へ

### ダイナミックな活動をめざして

#### 臨時定例会から様子をお知らせ

2月10日10:00からさがみはら市民会議の臨時定例会が、07年度の事業計画について話し合うという目的で開催されました。結論を出すことが目的ではありませんでしたので、どういうことが話し合われたかだけをまとめました。

●市民会議そのものにも事務局的な制度があるといい。旋回だんとそういう時期になってきたのではないかと。市民フォーラムの事務局もそろそろどうするのかという時期かな。

●外から市民会議を見ると、市民会議はサポセンに比べるとそのアイデンティが見えにくいような気がする。自らの主張の入ったテーマの見える活動の仕方もあるのではないだろうか。

●ネットワーク委員会は、トークサロンを中心にこれからも活動していきたい。今年度は5回開催したが、来年はさらに増加させていきたいと思う。

●総務委員会としては、さがみはら市民活動フェスティバルの運営に関わった。会のホームページやメーリングリストを立ち上げるなどした。会のPRをさらに進めたい

●政策情報委員会は、新市5地域での団体の話し合いを持った。この方向で来年度もさらに進めたい。相模原ボランティア協会と協働も行った。市民ノートその3を現在企画・編集中。都市内分権について企画。

●パートナーシップ推進課からの提案を受けて、市民人材データバンクの検討を開始した。市民活動支援を目的とした人材データバンクを検討中であり、仕組みができてきたらサポセン業務として取り組めるようにしていきたい。まず、ニードと人材の登録のめには、何回も市民への説明会を行う必要があるだろう。恐らくは個人の力の登録が主となるだろう。

●今後も、外部から色々活動の支援の話が来るだろう。サポセンの目的からすれば当然だが、十分検討してから受

ける必要がある。市民会議やパートナーシップ推進課とも十分話し合ってから進めたい。

●サポセンのPRを市民会議でもっとやった方が良くと思う。

●利用者懇談会の結果として、分野別団体の交流が実現したのは進歩だった。今後も継続したい。

●サポセンの契約更新が迫ってきているので、サポセン事業を会として今後どうするのか、再び考えなくてはならない時期になる。マンネリになっていないだろうか？

●今年度も予算の有効な使い方という点で言えば、会として自由な事業企画の余地はあったが、なかなか忙しくて発案がなかったのが残念。

●フェスタの基調講演で、早瀬さんの話をもっと聞きたかった。少し時間が短かったと思う。

●定例会の持ち方について、会員に来て貰うことを主とするのではなく、話し合うべきテーマごとに開くと言った方向性はどうか。

●自分達の事業評価について、多少感覚的でもやる必要がある。当初の目的・目標を見て、何をやったかやり方はどうだったか等検討する。しかも、それを第三者、P課の前で発表するというやり方。

#### 市民人材データバンクチーム

昨年12月から立ち上がった「市民人材データバンクチーム」の活動の様子をお伝えします。

平成15年2月に制定された「パートナーシップ推進推進指針」の中の市民活動を推進するための環境づくりの項にうたわれた「人材バンク」さらに、平成17年4月に制定された「さがみはら都市経営ビジョン」にもその必要性が指摘されている「市民人材バンク」、市民活動を活性化させるについて役に立つ「バンク」の創設を目指して、プロジェクトがスタートしました。

バンクの立ち上げにはパートナーシップ推進課があたることになっており、私たちの会に対して、協働での検討依頼があり、9月、10月の理事会での検討を経て、チームは発足しました。チームのメンバーは次ページの写真の通りです。

今年度中に5回の会合を行って、人材バンクの骨格を話し合っています。現在のバンクのイメージを示します。このイメージ図からわかりますように、このバンクは、まちづくりの担い手である団体・組織がそれぞれの状況において必要とすることをニーズとしてとらえ、それに対して市内にある資源（人材・企業・団体など）をマッチングさせることを狙ったものです。



後列：神田，関口，斉藤  
前列：伊藤，渡辺，西本，森  
左：鹿野，本橋のメンバー

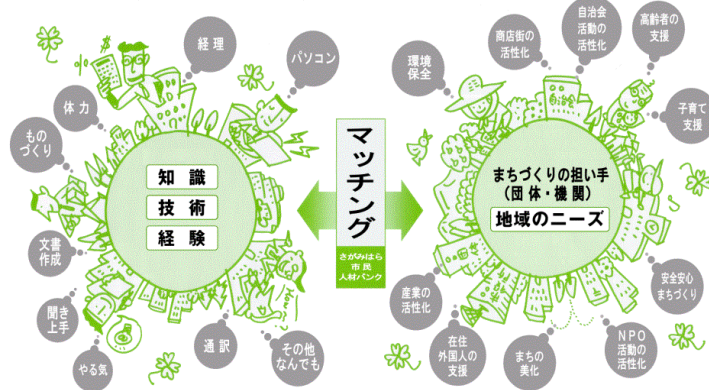
と行政の効果的な協働事業の仕組み」を提出するにあたり、より広い市民への説明と意見収集を行う目的で、相模大野，橋本，中央の市内3ヶ所において「パートナーシップ市民フォーラム」が開催されました。



中央地区 ウエルネス7階視聴覚室にて

## 市民パワーでまちづくり!! さがみはら市民人材バンク

イメージ図(素案)



さがみはら市民活動サポートセンター

さがみはら市民活動サポートセンター

既存の人材バンクとしては、ボランティアセンターの「いるかバンク」生涯学習情報システムにおける講師・指導者の情報があります。前者は福祉目的の個別ニーズに対応するものであり、後者は講師を検索する目的のものであります。どちらも似通ったところがありますが、やはり今回検討しているバンクとは異なります。

市民団体を支援する目的を持った人材バンクは全国的に見ても事例が少なく、調査したところでは四日市の事例が、まさに今動き出したところであり、注目し調査にも行っていただいています。

「市民人材バンク」仕組みができましたら、会員の皆様も是非シーズ面、ニーズ面両方で登録して下さい。

## さがみはらパートナーシップ市民フォーラム

### 協働事業のしくみを提案

市民フォーラムは相模原市長との協定書を結び、この1年間近く100名余の会員によって活発な活動が行われてきました。その成果として、市長への提案書「市民

2月20日(火)の相模大野会場では、「地域に根ざした協働とは」という題で法政大教授の田中充さんの基調講演、協働事業の仕組み案の発表、市民活動事例5件の発表、市民社会パートナーズの庄嶋孝広さんのコメント、フロアー討議が行われました。

2月22日(木)の橋本会場もほぼ同様の内容で行われ、ここでは4つの市民活動団体の発表がありました。その後は参加者をグループ分けした分散会となり、提案の内容についての活発な意見交換がおこなわれました。

2月25日(日)の中央地区では、「今、なぜ協働なのか」という題で明治大教授牛山久仁彦さんの基調講演の後、様々な立場の市民5人からの提案に対する意見が発表され、その後フロアー討議となりました。

私は、橋本と中央の2会場に参加してみました。橋本ではグループに分かれて自由に仕組みへの意見を言えたことがよかったように思います。ただ、この会の初参加の方にとっては、市民フォーラムのミッションとパートナーシップの関係など基礎的なことを理解していない方も当然おられたので、ちょっと説明が欲しいと思いました。中央では、その点について親切な説明がありました。ただ、指定された発言者とフロアーからの提案への意見とのからみが難しいと感じました。

会場からの意見は多く出されました。例えば協働事業の提案から実施までの時間が長いとか、事前協議の場の設定が重要、この制度で全てのパートナーシップのあり方を決めるわけではない、市職員の積極的な事業提案が重要などなどでした。

これらの意見を参考にしながら、市民フォーラムが一つの提案を成し遂げていくこととなります。次年度以降の新しいミッションに向かって、また議論がすすんでいくことでしょう。(西本 敬)